八月七日 長浦農業協同組合事務所の裏に建築した農業倉庫の完工式。うまい米一万五千俵を、味をおとさず長期間保管できる低温倉庫。総工事費約四千万円。

八月九日 熊倉中条町長、長谷川理簡村助役、本間日報新発田支局長とともに、新潟日報祭記念感謝論文審査。豊栄市からの応募者五名はいずれも選外となり残念。元岡方中学教員で村上市の成田与志雄先生が二位。字数が少く制限されているので、論点の範囲をひろげると迫力に欠ける。焦点をしぼったものが読者の胸をうつ、とは審査員の一致した意見なので、今後の参考に。

八月十日 中央公民館で福島潟放水路、新発田川放水路促進期成同盟の結成大会。阿部松沢代議士、曾我、岩村県議等の来賓を迎え、参会者約三百名で気勢をあげる。私が委員長、新発田、豊浦、笹神、聖籠各市村長が副委員長に推される。

八月十五日 全国防犯組合連合会、読売新聞社主催の少年野球全国大会に、葛塚チームが関東甲信越代表として出場して二十年。市消防署に勤める林士長や当時の選手九名、監督の若狭先生（当時葛塚中学、現亜野小学校）野球連盟会長の中川八郎さん。埼玉からかけつけた応援団長の山尾敏衛さん等が中常樓で回顧の会を開く。後楽園のグランドに立った少年の日の感激、九州誤早に勝ち、八戸に負けて涙をのんだ思い出話に花が咲く。この伝統にも沿った地域に、西校は上土地亀三軒屋の裏手附近を予定しています。

東校―市街地を縦貫する葛塚停車場山倉線以東を概ねの学区とし、児童数六百人を収容できる学校とします。近くには幼稚園、給食センターを設け、四十九年には建築に着手するよう現在用地折衝を進めています。用地は二万六千三百平方㍍（約八千坪）が必要とされます。

西校―市街地の西側を概ねの学区とし、七百人ていどの児童を収容できる施設にしたい計画です。五十一年建築を目度とし、二万五千平方㍍（約七千六百坪）の用地を必要とするため、用地の折衝を進めています。

東、西両校が完成すると現在の校舎は不用となりますがこの跡地利用については総合的な文化施設、たとえば市民

たばこは市内のたばこやさんで

市内のたばこやさんで買った20本入れ1箱について14円82銭がたばこ消費税として市の収入になります。

市長の日誌

石井耕一

八月二十日 巻高等学校で新潟県消防大会。消防団第二機動班（木崎）が下越代表として操法競技に出場し、優秀な成績をあげる。明年は豊栄市が会場となる予定。

八月二十三日 南小学校へ移転後あく岡新田小学校の校舎に軽工場を勝致したいとの地元の要望あり。佐藤参議院議員の紹介で、小黒議会議長、池田議員、地元代表とともに五泉商工会議所に出向き吉田副会頭、織物工業組合役員たちと懇談。特に縫製部門が労力不足なので、数社がここへ進出する見込み濃厚。その後既に三社が現地調査に来校。

八月二十五日 金沢市の北陸団長の山尾敏衛さん等が中常樓で回顧の会を開く。後楽園のグランドに立った少年の日の感激、九州誤早に勝ち、八戸に負けて涙をのんだ思い出話に花が咲く。この伝統にも

八月二十七日 元岡新田小学校用務員原啓次さんの一周忌に当り、原さん宅に俳友たちが集り追悼句会を開く。生前の原さんの人柄などの思い出話に花が咲く。この伝統にも

九月一日 福島潟に関する認識を深めたいと希望する各自刊紙及びNHK新発田支局記者と潟の視察の後、松潟屋で懇談。

九月四日 ごみ捨場になりそうな福島潟をきれいにする運動展開のため、新発田、豊浦笹神、水原、京ヶ瀬の各市町村長、保健所長、福島潟干拓事務所長、福島潟土改理事長が市役所に集まり協議（写真）

九月六日 山口県新南陽市役所で、全国新市協議会の役員会。次の国会に自治省が提案する予定の人口急増市町村対策特別措置法（国勢調査人口が五年間に一〇％以上、五千人以上増加した市町村の都市施設に対し、建設費補助率を上積するもの。豊栄市は基準に達せず）に、実情がそれに近い都市も適用できるよう法案改正の陳情を提案し、了解を得る。このことは、全国市長会長の渡辺新潟市長にも既に話し賛成を得ている。

福島潟に鳥類観測ステーション

福島潟に野鳥観測のための鳥類の観測ステーションが設置されることになりました。

福島潟は、昨年銃猟禁止区域に指定されましたが、天然記念物のヒシクイやマガン、あるいは白鳥など野鳥の飛来地として一躍注目をあつめており、それとともに潟の自然環境の保全が重要な課題となっています。

鳥類観測ステーションの建設場所は、干拓によってできた正面堤にある西部揚水機場附近です。

この建設事業は、県が国（環境庁）の委託をうけて成叡を挙げる。明年一度花を咲かせたいもの。

八月二十日 巻高等学校で新潟県消防大会。消防団第二機動班（木崎）が下越代表として出場し、優秀な成績をあげる。明年は豊栄市が会場となる予定。

八月二十三日 南小学校へ移転後あく岡新田小学校の校舎に軽工場を勝致したいとの地元の要望あり。佐藤参議院議員の紹介で、小黒議会議長、池田議員、地元代表とともに五泉商工会議所に出向き吉田副会頭、織物工業組合役員たちと懇談。特に縫製部門が労力不足なので、数社がここへ進出する見込み濃厚。その後既に三社が現地調査に来校。

八月二十五日 金沢市の北陸団長の山尾敏衛さん等が中常樓で回顧の会を開く。後楽園のグランドに立った少年の日の感激、九州誤早に勝ち、八戸に負けて涙をのんだ思い出話に花が咲く。この伝統にも

八月二十七日 元岡新田小学校用務員原啓次さんの一周忌に当り、原さん宅に俳友たちが集り追悼句会を開く。生前の原さんの人柄などの思い出話に花が咲く。この伝統にも

九月一日 福島潟に関する認識を深めたいと希望する各自刊紙及びNHK新発田支局記者と潟の視察の後、松潟屋で懇談。

九月四日 ごみ捨場になりそうな福島潟をきれいにする運動展開のため、新発田、豊浦笹神、水原、京ヶ瀬の各市町村長、保健所長、福島潟干拓事務所長、福島潟土改理事長が市役所に集まり協議（写真）

九月六日 山口県新南陽市役所で、全国新市協議会の役員会。次の国会に自治省が提案する予定の人口急増市町村対策特別措置法（国勢調査人口が五年間に一〇％以上、五千人以上増加した市町村の都市施設に対し、建設費補助率を上積するもの。豊栄市は基準に達せず）に、実情がそれに近い都市も適用できるよう法案改正の陳情を提案し、了解を得る。このことは、全国市長会長の渡辺新潟市長にも既に話し賛成を得ている。

葛塚小の分離計画

人口増加危険校舎で五十一年を目度

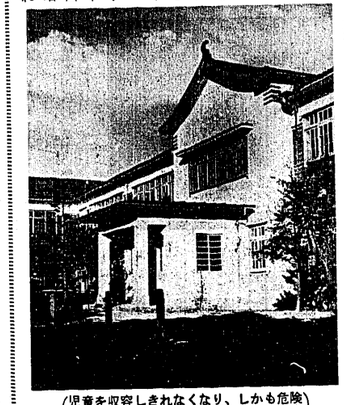
五月一日現在で実施された学校基本調査によると、市内十一小学校のなかで児童数のいちばん多いのは葛塚小学校で二千八学級二千八十六人、次いで木崎小学校十三学級三百六十人、いちばん少ないのが下七地亀小学校六学級八十八人です。

教育委員会では、早くから市内小中学校の規模の適正化を検討していましたが、人口の過密過疎に伴う小規模校の統廃合と大規模校の分離を図ることになり、具体的に事業をすすめています。長場、岡新田両校を統合して南校の建築に着手したのもこの計画によるものです。そこで今回は葛塚小学校の分離計画の概要をおしらせします。

市街地人口の増加によって市内最大の規模となっている葛塚小学校は、年々児童数が増加しています。

しかも宅地造成がさかんに行なわれていることから葛塚市街地の人口は昭和五十五年ころには八千五百人くらい増加し一万七千七百人（四十五年には九千二百人）くらいになるものと予想されるため、市街地にもうひとつ小学校を建築する必要があります。

また現在の葛塚小学校の一部分は大正十二年の建築（旧嘉山校舎）で大部分は昭和十三年に建築され



（児童を収容しきれなくなり、しかも危険校舎の改築に迫られた葛塚小学校の校舎）

たもので、いずれも古くなって危険の度合いが高くなってきています。

葛塚小学校の分離計画は、現在の小学校を東西に分けて東校は稲荷浦の裏手鋼屋川に沿った地域に、西校は上土地亀三軒屋の裏手附近を予定しています。

東校―市街地を縦貫する葛塚停車場山倉線以東を概ねの学区とし、児童数六百人を収容できる学校とします。近くには幼稚園、給食センターを設け、四十九年には建築に着手するよう現在用地折衝を進めています。用地は二万六千三百平方㍍（約八千坪）が必要とされます。

西校―市街地の西側を概ねの学区とし、七百人ていどの児童を収容できる施設にしたい計画です。五十一年建築を目度とし、二万五千平方㍍（約七千六百坪）の用地を必要とするため、用地の折衝を進めています。

東、西両校が完成すると現在の校舎は不用となりますがこの跡地利用については総合的な文化施設、たとえば市民会館、図書館、博物館などの場所として確保したい考えです。

この計画を実施するに当っては、用地買収の問題あるいは学区の問題等重要な課題を解決することが必要であり、市民のみなさんのご協力をお願いします。

恒久治水対策で委員会設置

市は福島潟周辺の水害対策について、この早期完全実施を機会あることに国や県に対して陳情したり要望したりしてきました。しかし、現状はこの対策事業の中心ともいえる福島潟放水路の建設は、全体からみればごく一部の用地買収が終ったていどとなっています。

そこで三たびあの悲惨な水害を繰り返さないために、この対策事業が障害なくスムースに推進できるよう、市の附属機関として「福島潟周辺治水対策委員会」を設けることになり、このほど次のとおり委員を委嘱しました。

小黒誠四郎、渡辺隆作、風間一夫、庭山健吉、品山栄喜太、品山佑二、寺尾智明（以上市議会議員）川崎耕松、曾我拖之亟、横山熙（以上土地改良区）林伝一郎、高橋惣作、前田正三郎、嘉藤嘉雄（以上自治会）石井虔（農業協同組合）

市の建設工事

工事 ㈱五十嵐組 八三万七千円、十月二十日

△太田小・木崎小・岡方第一小・木崎中・岡方中・長浦中防犯灯および火災報知器設置工事 八千代電業㈱葛塚営業所 二〇〇万円、九月二十八日

△葛塚北線舗装新設工事 丸進建設㈱ 七九〇万円 十二月三日

△太子堂排水流末工事 ㈱品田組 二〇五万円、十月二十日

△豊栄南小学校給水設備工事 ㈱満電社 九六〇万円、四十八年七月三十一日

△豊栄南小学校電気工事 ㈱品田組 七六万円 九月二十三日

△市道尾山・早通・松潟線舗装工事 ㈱加賀田組 一〇〇万円、九月二十四日

△白新町地内側溝伏設工事 ㈱佐藤建設 一三八万円、十月十日

△川岸土地区画整理事業支線一号整備工事 ㈱品田組 七六万円 九月二十三日

（工事名、請負者、請負額、完工予定日）